

「自ら考え、協働できる児童の育成」～自分も人も笑顔になれる学校をあなたとわたしでつくる～

研究主題

# 自律した学びでの育成3.0

～見方・考え方を働かせたふり返りを書ける子～

柱1



**錦スタ** 錦城っ子スタンダード  
学力向上の基盤づくり

学習への取り組み姿勢向上のため「ベルスタ」を徹底し、集中できる学習用具を整える。また、毎回の丁寧な記名指導を通して、学力の基盤となる丁寧さや粘り強さを育む。

柱2



**授業改善**  
誰一人取り残さない

教員各自が課題をもち、「全員参加」の段階指標を児童と共有する。「レベルアップタイム」や集会、毎週の教材研究の時間を設け、「全員参加」にこだわった授業改善を推進する。

柱3



**教材研究**  
子どもが主役の授業

算数科で「見方・考え方(めがね)」を児童と共有し、指導案や単元構想シートに明記して一貫した授業を行う。毎時間のふり返りにも、見方・考え方を働かせた痕跡が現れるよう促す。

令和8年度 錦城小学校 学校研究における言葉の定義

見方・考え方



教科特有の「めがね」である。学習指導要領に示されている事項を根拠とする。

学力



「学習後も活用できる力」のことである。「読み書き計算」が土台であり、そのうえに「三観点」で身につけた資質・能力があり、それらを駆使して活用できる力を身につけさせる。

授業改善



誰一人取り残さない、「全員参加の授業」にしていくことである。授業への参加度には段階があるが、あくまでも「全員参加」を目指していく。

検証方法

- ①学期末教員アンケート  
(授業改善に関するもの・学校評価)
- ②学期末スマイルアンケート  
(児童対象)
- ③年度末ふり返りの分析  
(12月のみ)